

看護の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な指導方法

～3観点の評価規準作成～

1 はじめに

新学習指導要領では、看護の目標として、「看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護を通じ、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を育成する」とあり、その具体的な資質・能力の一つとして「看護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力」が挙げられている。

これらのことから本研究では、臨床場面に即した事例を提示し、情報を正確に読み解き、科学的に思考・吟味し活用する力の育成をねらいにICTを活用した。更に、論理的思考を高めるための手だてとして、ロイロノート・スクール（株式会社LoiLo, 以下「ロイロノート」と表記）を活用した新たな教材も積極的に取り入れ、単元の3観点の評価基準も合わせて作成し実践したので、ここに報告する。

2 単元の概要

- (1) 科目名 基礎看護
- (2) 実施時期 1学期
- (3) 対象生徒 衛生看護科3年生 40名
- (4) 使用教材 高等学校用 基礎看護（文部科学省）、タブレット端末、プロジェクトロイロノート・スクール（株式会社LoiLo, 以下「ロイロノート」と表記）
- (5) 単元名 第4章 看護活動の展開 第3節看護の過程 第3看護上の問題とその解決の過程

3 単元の目標

- (1) 慢性期の高齢患者が自己管理を目指して、疾患や処置に関する知識と技術を円滑に習得できるよう支援する方法について理解するとともに、看護過程に関連する技術を身に付ける。【知識・技術】
- (2) 慢性期の高齢患者の看護について多様な課題を発見し、職業倫理の視点を踏まえ、自己管理を目指した解決策を見いだす。【思考・判断・表現】
- (3) 看護過程について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるように主体的かつ協働的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
慢性期の高齢患者が自己管理を目指して、疾患や処置に関する知識と技術を円滑に習得できるよう支援する方法について理解しているとともに、看護過程に関連する技術を身に付けている。	慢性期の高齢患者の看護について多様な課題を発見し、職業倫理の視点を踏まえ、自己管理を目指した解決策を見いだしている。	看護過程について自ら学び、慢性期の高齢患者に応じ実際の看護を適切かつ安全に展開できるように主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（6時間）

第3節 看護の過程	6時間
3 看護上の問題とその解決の過程	(6時間)

時間	学習活動	評価		評価方法
		観点	記録	
座学：加齢とともに健康課題が増加する高齢者の理解 【ねらい】患者と実習生との会話場面から、慢性期の高齢患者がもつ様々な健康課題を発見する。				
1 ・ 2	<p>理解しよう1</p> <p>◆慢性期を経験している患者・家族への援助について調べ、健康障害の時期(慢性期)と発達段階(老年期)に伴う問題を踏まえ、看護の必要性を理解する。</p> <p>考えよう1</p> <p>◆患者と実習生との会話場面の動画を視聴し、治療が退院後の生活にどのような影響を与えているか、科学的な根拠を踏まえて考える。</p> <p>ロイロノート</p> <p>・動画から、援助の必要性とその看護介入について個人で考察する。その際、ロイロノートのシンキングツールの『情報分析チャート』か『ピラミッドチャート』を活用する。</p>	知 思	○ ○	<p>・慢性期の高齢患者の身体的・社会的・心理的に伴う問題について理解し、適切に記述している。レポート 定期考査</p> <p>・慢性期の高齢患者に対し、治療が退院後の生活に与える影響について身体的・社会的・心理的な観点から情報を精査し、ロイロノートのシンキングツールへ、わかりやすく表現している。ロイロノート</p>
演習（グループワーク）：慢性期の高齢患者がもつ看護上の問題点の明確化 【ねらい】慢性期の高齢患者がもつ様々な健康課題から職業倫理の視点を踏まえ、看護上の問題点を考える。				
3	<p>話し合おう1</p> <p>◆慢性期の高齢患者がもつ様々な健康課題から看護上の問題点を他者と協働して、意見をまとめる。</p> <p>ロイロノート</p> <p>・グループ（5～6名）の中で班員各自が作成したシンキングツールを比較し、必要な情報を精査して、グループの意見をまとめる。</p> <p>※【確認のポイント】</p> <p>・加齢による心身の変化 ・疾病認識と自己管理の状況</p>	態	○	<p>・自分の考えを、他者に提案したり、他者の意見を取り入れながら、協働的に取り組んでいる。ロイロノート 観察</p>

	・生活環境			
座学・演習（グループワーク）：慢性期の高齢患者に関するセルフケア支援				
【ねらい】慢性期の高齢患者の自己管理を目指した解決策について、自己管理を阻害する要因と対比させながら、具体的な看護介入を見いだす。				
4	<p>話し合おう2</p> <p>◆話し合おう1でまとめた結果をもとに、看護臨地実習での体験と結び付けながら他の班員との合意形成を図り、より具体的な解決策をまとめる。</p> <p>※【確認のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドヒアランスの支援 ・自己肯定感を高める方法 <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援 <p>ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その人らしい治療に伴う処置の習得方法」や「退院後の生活を支える方策」について各自が作成したシンキングツールを基に、グループの意見をまとめる。また、定期考査に解答する。 	思 態 知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期の高齢患者が疾患に伴う処置に関する自己管理を遂行するための解決策について理解し、適切に記述している。 <p>※『アドヒアランス』とは、患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に沿って治療を受けることを指す。</p> <p>※『自己肯定感を高める方法』とは、遂行行動の達成と言語的説得を指す。</p> <p>ロイロノート 定期考査</p>
6	<p>深めよう1</p> <p>◆発表者は成果物を示しながら、課題に対する話し合いのプロセスや看護上の問題点とその解決策について解説する。</p> <p>ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末で、発表グループの学習成果について情報を共有し、内容の理解に努める。 	態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末で、発表グループの学習成果について情報を共有し、内容の理解に努める。 観察 ・授業内で解決できない内容については、各自で調べ学習を行いレポートへ補足しまとめている。 レポート

※○印は評定のために用いるもの。

6 評価

【知識・技術】 5割

	「おおむね満足できる」状況B	「十分満足できる」状況A	「努力を要する」状況Cと判断した生徒への指導の手立て
第3節	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象がもつ様々な健康課題（身体的・社会的・心理的・発達段階に伴う問題）について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〔定期考査〕において、慢性期にある対象がもつ様々な健康課題（身体的・社会的・心理的・発達段階に伴う問題）について科 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に使用した資料や教科書を見ながら確認していく。

		学的な視点から回答できる。	
	・慢性期にある対象が、糖尿病の治療を自己管理するために必要な知識と技術について理解している。	・〔定期考査〕において、慢性期にある対象が、糖尿病の治療を自己管理するために必要な知識と技術を円滑に習得できるよう支援する方法について回答できる。	・学習に使用した資料や教科書を見ながら確認していく。

【思考・判断・表現】 3割

	「おおむね満足できる」状況B	「十分満足できる」状況A	「努力を要する」状況Cと判断した生徒への指導の手立て
第3節	・慢性期にある対象にとって治療が退院後の生活にどのような影響を与えているかについて、教科書と自らの経験を基に考察している。	・慢性期にある対象にとって治療が退院後の生活にどのような影響を与えているか情報を総合的に整理し、看護の必要性を踏まえ表現している。	・学習した資料を基に、慢性期の特徴や発達段階に伴う健康課題について確認し、慢性期にある対象の年齢や様子などの情報を再度注目させ、個別の情報を確認していく。

【主体的に学習に取り組む態度】 2割

	「おおむね満足できる」状況B	「十分満足できる」状況A	「努力を要する」状況Cと判断した生徒への指導の手立て
第3節	・自分の考えを、対象がもつ健康課題の視点から他の人に提案したり、他の人の意見を自分の考えに取り入れたりするなど協働的に取り組んでいる。	・〔ロイロノート〕に、協議内容や他の人の考えの良い点を参考にしながら加筆しまとめ、改善しようとしている。	・グループの成果物を見直し、改善策につながるものはないか再度考えさせる。
	・単元の最初に出した疑問が授業の内容で解決している場合はその答えを分かりやすく記入している。	・単元の最初に出した疑問が授業の内容で解決している場合はその答えを分かりやすく記入している。授業だけでは解決していない場合は、自分で複数の資料等から調べ分かりやすくまとめ、改善しようとしている。	・単元を復習させ、再度考えさせる。また、疑問点を文献等から調べさせる。